

県内復興・経済日誌（2016年1月）

1日

《いわきの白水阿弥陀堂で輝き祭、参道照らす800個の灯籠》

平成28年の年明けを祝う白水の四季まつり「新春の輝き祭」が12月31日から1月1日未明にかけて、いわき市の国宝白水阿弥陀堂前広場で開かれた。参拝者の足元を照らすため、地元住民らがペットボトルで約800個の灯籠を作った。訪れた人たちは、灯籠がつくり出す幻想的な風景を楽しんだ。

8日

《アニメで本県の今発信》

県は、東日本大震災と原発事故から間もなく5年を迎える県内の現状を、短編アニメーションで世界に発信すると発表した。タイトルは「みらいへの手紙 この道の途中から」。県内各地から集めた10本の実話を、三春町のアニメ制作会社「福島ガイナックス」がそれぞれ約2分間の物語にまとめる。インターネットの特設サイトで公開し、国内外に「福島の今」を届ける。

《県ハイテクプラザ会津若松技術支援センター、総務大臣賞》

総務省の平成27年度「ふるさとづくり大賞表彰」で、県ハイテクプラザ会津若松技術支援センター（会津若松市）が総務大臣賞（試験研究機関表彰）に選ばれた。今回の表彰では、3年連続日本一に輝いた全国新酒鑑評会など国内外のコンクールで好成績を収めた県産清酒を技術的に支え、「福島の酒」のブランドイメージ向上に貢献したことが評価された。

《ふくしま自然エネルギー基金、設立を発表》

会津電力（喜多方市）の佐藤弥右衛門社長ら発起人が福島市で記者会見し、「ふくしま自然エネルギー基金」の設立を発表した。同基金は数十億円を目標にホームページなどを通じて国

内外に寄付を呼び掛け、太陽光発電などの普及や地域活性化事業、教育・福祉事業などへ費用支援する。

《本県避難者初めて10万人下回る》

県は、東日本大震災と原発事故に伴う避難者数が99,991人となり、初めて10万人を下回ったと発表した。内訳は県内避難者数が56,463人（昨年12月31日現在）、県外避難者数が43,497人（同10日現在）、避難先不明者数が31人となった。平成24年5月のピーク時には164,865人が避難していた。

9日

《東大、菊池製作所が歩行支援ロボット発表》

東大と、南相馬市小高区、飯館村などに工場を持つ菊池製作所（東京都）は、研究開発を進めてきた「災害対応避難者アシストロボット」を発表した。座ったまま歩ける歩行支援機で、災害時だけでなく、普段の生活にも利用できる。同社は今後、同市小高区の工場で量産する意向で、被災地復興とともに災害対応ロボットの「福島ブランド」構築を目指す。

12日

《福島県立医科大学に新学部》

県は理学療法士など保健医療従事者を養成する新施設の基本構想を発表した。福島県立医科大学に新たな学部を設け、4年制課程で理学療法士、作業療法士、診療放射線技師、臨床検査技師を育てる。定員は計145人で、診療放射線技師の養成は県内初となる。平成33年4月の開設を目指す。

13日

《福島県当初予算、1兆8,000億円台》

県は平成28年度当初予算案の一般会計総額が、要求ベースで1兆8,000億円台になるとの見通しを明らかにした。過去最高だった平成27年度

当初予算の1兆8,994億円とほぼ同水準の大規模予算となる。被災者の生活再建、帰還支援など復興関連事業を平成27年度と同規模を確保して取り組むほか、地方創生に向けた人口減少対策にも重点を置く。

《和牛初競り、過去最高額を更新》

全農県本部の新春和牛初競りが本宮市の県家畜市場で14日に向け開かれた。初日の競り値の平均は、昨年同月平均を15万3,489円上回る74万3,936円となり、初競りの過去最高額を更新した。初日の競り値の平均価格は東日本大震災が起きた平成23年度の約2倍となった。

14日

《会津大学、プログラミング世界大会出場》

チームでプログラミングと問題解決能力を競う「ACM 国際大学対抗プログラミングコンテスト」の世界大会に、会津大学が出場することが決まった。同大の世界大会への出場は、平成21年以来7年ぶり2度目。世界大会は5月にタイで開かれ、世界大会には各国から113校が出場する。

20日

《南相馬復興アグリ、トマト工場完成》

原発事故からの地域農業再生を目指し、南相馬市小高区出身の元東電執行役員が設立した「南相馬復興アグリ(株)」は、同市原町区の下太田工業団地に建設したトマトの大規模工場「南相馬トマト菜園」の開所式を行った。土を使わない環境制御型養液栽培で、震災前の同市のトマト生産量の約半分に当たる年間660トンを出荷する計画。総事業費は約11億円。約1万5,000平方メートルの温室にて、年間を通して中玉トマト2万8,000株を育てる。

22日

《川俣町・ベルグ福島、野菜苗工場本格稼働》

野菜苗の生産・販売で国内トップシェアを持つベルグアース(愛媛県宇和島市)の子会社、ベルグ福島(川俣町)は、東日本の生産拠点として同町羽田の工業団地に整備した植物工場の落成式を行った。大型10連棟のハウスに植物工

場を造り、人工光による苗生産施設と太陽光を利用した育苗ハウスを構えた。二酸化炭素や光、水の量、温度を自動調整する機能を備える。

25日

《磐梯町の歴史的風致維持向上計画、国が認定》

磐梯町の「磐梯町歴史的風致維持向上計画」が国の認定を受けた。東北では6市町目、県内では白河市、国見町に続き3市町目。平成28年度から10年間、国の財政支援を受けて、町内にある慧日寺跡を中心とした門前町の統一された景観形成などに取り組む。

27日

《大熊町初、メガソーラー完成》

大熊町の復興拠点になっている大川原地区に建設が進められていた大規模太陽光発電所「大熊町ふるさと再興メガソーラー発電所」が完成し、現地で竣工式が行われた。町内で初めてのメガソーラーとなる。発電所は最大出力約2メガワット、年間発電量は約220万キロワット時で約600世帯分を見込んでいる。東北電力に全量売電し、売電益の一部は、町内に整備予定の植物工場運営に活用する。

《福島県産業振興センター、「プロ人材」採用支援の新拠点開所》

福島県産業振興センターは、福島市のコラッセふくしまに「県プロフェッショナル人材戦略拠点」を開所した。県内の中小企業に対し専門的な知識や技術を持つ「プロの人材」の採用をサポートし、商品開発や販路開拓などの新たな挑戦を促す。

29日

《福島よしもと、郡山市大町にオープン》

吉本興業(大阪市)の情報発信施設「福島よしもと」が郡山市大町の複合商業ビル KIK' B^{キックビー}にオープンした。とにかく明るい安村さん、お笑いコンビのピスタチオ、本宮市出身の三瓶さんら人気芸人が駆け付け、福島の魅力をお笑いに乗せて全国に発信することを誓った。テープカット後、スタジオでネット動画配信を行い、ゲストらが県産品をPRした。